

すぐ引ける、よくわかる

神像

原初的形態

神とは、本来、目に見えない、言葉でも容易に表現できないような宇宙に遍満する超自然的な力を意味した。そこで、太陽や月などの天体、雷・風・雨などの気象現象、山・海・川・滝・岩石・樹木・火や水などの自然や動植物などが神の力の表れとみなされ、やがて神そのものとしても崇拜されるようになった。神の形姿をかたどったさまざまな神像も、神そのものよりも、神の霊力が憑依する依代はりしりとされていることが多い。神の力を



オルフェウス教の神祕創造説を象徴する宇宙卵に巻きついた蛇、動物のなかには、世界の創造に積極的役割を果たすものがあり、蛇はその代表的なものである。

理解可能なように可視化し、さまざまなものに託して神の姿をかき見したのである。神の原始的な形態は、世界をつき動かす、秩序づけている自律的なソブズや、あるいはオオスからまきこにコスモスが誕生しようとする瞬間、また除穢など超自然的な二つの力の絶え間ない相互交渉、その民族のもつ宇宙観や世界観、分類体系など多種多様な場面や要素を基に、物性と霊性が生き生きと融合した姿で表現され構想されたのである。

原典 古語

【構成】- 右側からアラスカ

右-二つの心臓を食らい、日々、再生を繰り返す太陽神、(アステカの圓石) は日曜、メキシコ市、人類学博物館、色紙は復元したもの。



上-日輪を顔にいただく黄金のハヤブサ、黄金の鳥は太陽神ホルスの力の象徴、エジプト、カイロ美術館



上-古代エジプトの太陽神ラーの目、宇宙創造神としても尊称された。目の周りに蛇の舌の神はラーがめぐる力を象徴する。(死者の書より)

右-太陽神、即ち神の象徴たる動物を天に曳がれ、踏み上げたトータム・ポール、頂上にワシが座す、アラスカ、トータム・ヘリナイジ・センター

下-傷口から天の声を告げる古代メキシコの創造神ケツァルコアトル、原型は水や雷神と関連する。

精霊神



宇宙神

上-太陽原形(地球二元、宇宙の生成・消滅)を表す円盤を用いた盤石、大島博物館



天空神



上-天空の女神ハトホル、エジプト、ダルフ出土のパレット、約4000
下-雷神トール、スウェーデン、ゴトランド島出土、11世紀



上-先達の雷神と并をなす雷神、花形火神(雷神雷神雷神)安南国立博物館
下-大の神アグニ、破壊と創造の二儀をもつ、インド、抄写版



自然神

上-メキシコの鳥の神トラロック、サギの羽の王冠をかぶり、雷鳴雷を誘える、アポアティブカンの像



上-生命の泉と豊饒を人々に与えるイチジクの女神、ラーベ、前16〜前14世紀